

一般論文

短期大学学生の音楽志向・スポーツ志向・性格特性 の関連性の有無の分析

Analysis of Relationship between Music Consciousness, Sports Consciousness and Characteristic Features of Junior College Students

澤田 優子、澤田 孝二

Yuko SAWADA, Koji SAWADA

概要

学生の音楽志向、スポーツ志向、性格特性の関連性の分析を通して、(1)音楽を聴いたり、歌を歌ったり、楽器を演奏することが好きな人は、音楽全般に対する関心が高く、それが音楽への取り組みを積極的なものにし、音楽の成績の好結果にもつながっているのではないかということ、(2)スポーツへの関心の高さが、スポーツへの取り組みを積極的なものにし、結果的にスポーツに関する知識や技能を高め、体育の成績の好結果にもつながっているのではないかということ、(3)活動的な傾向にある者ほど音楽への取り組みも積極的で、音楽を聴くことや歌を歌うことを好む傾向にあるのではないかということ、(4)活発・協調的・ねばり強い・明朗であることなどは一般的にスポーツに向いていると特性と考えられ、これらの特性を備えた者ほどスポーツへの関心も高く、スポーツをすることを好む傾向にあるのではないかということなどが推察された。

今後、聴くことが好きな音楽のジャンル、歌うことの好きな歌のジャンル、演奏することの好きな楽器の種類、関心のあるスポーツの種類、実践してみたいスポーツの種類の間の関連性の有無についての分析をすすめていきたい。

キーワード：音楽志向、スポーツ志向、性格特性

1. はじめに

音楽とスポーツは、いずれも実技系あるいは表現系の分野であるという点で共通している。楽器の演奏や歌唱、各種スポーツの実践はヒトの運動機能や神経機能を駆使して行われ、レベルの向上のために日々の練習あるいはトレーニングが不可欠であることも共通している。このように音楽とスポーツは共通点の多い分野であると考えられるが、「音楽には興味があるがスポーツには関心がない。」「スポーツは得意だが音楽は苦手だ。」というような声を耳にすることもよくあり、2つの

分野にはかなり隔たりがあるようにも思われる。また、音楽やスポーツに対する興味の持ち方や関わり方に、一人一人の性格特性が影響を及ぼしていることも考えられる。例えば、気性の穏やかな人は、気性が激しい人に比べて穏やかな曲調の音楽を好む傾向があるかもしれないし、活動的な人は、おとなしい人に比べて積極的にスポーツに取り組む傾向があるかもしれない。このように、性格特性が音楽やスポーツに対する志向に影響を及ぼすことは容易に想像できるが、実際どうであるかは調べてみないと明らかにはならない。

音楽能力と運動能力の関連性、音楽聴取の運動

能力やスポーツ活動への影響、音楽の好みと性格特性の関連性等について、いくつかの先行研究がある。

岡¹⁾は、中学生の音楽的能力と運動能力の関係を明らかにするために、リズム感を判定するテストの結果とスポーツに関する測定および調査結果の関連の有無を調べ、リズム感の成績と、50m走・走り幅跳び・ハンドボール投げの成績、スポーツ歴の調査結果、スポーツの好き嫌いの調査結果の間には相関関係は認められなかったことを報告している。

麻²⁾は、20代の男女15名を対象として好みの音楽の聴取と身体運動能力の関連性の有無を実験的に調べ、好みの音楽の聴取が全身反応時間の成績、大腿直筋の活動量の成績にプラスに作用することを報告している。

杵³⁾は、スポーツを行っている大学生と社会人を対象として実施したスポーツ活動と音楽聴取についての調査の結果を分析し、日常的に音楽を聴いている者が9割以上を占めることや、トレーニング中や試合前に音楽を聴くことが気分を高める、落ち着く、リラックスするなど心理的な効果をもたらしていることなどを報告している。

広瀬⁴⁾は、大学生の音楽の好みと性格の関連性について調査を行い、12の音楽ジャンルのうち、ジャズが外向性と負の関係、レゲエが協調性と正の関係、ハードロックが知的好奇心と負の関係、ロックが良識性と正の関係にあることを報告している。

本研究においては、短期大学学生を対象に実施した音楽志向、スポーツ志向、性格特性に関する調査の結果を分析し、調査対象全体の回答結果の概要、ならびに音楽志向、スポーツ志向、性格特性の間に関連性がないかどうかを分析した結果を報告することにした。

2. 方 法

2017年5月に保育系短期大学学生159名を対象として、音楽志向、スポーツ志向、性格特性に関する調査を実施し、回答の得られた159名分を分析した。

調査項目は、音楽を聴くことの好き嫌い、聴くことの好きな音楽のジャンル、歌を歌うことの好

き嫌い、歌うことが好きな歌のジャンル、楽器演奏の好き嫌い、演奏することの好きな楽器の種類、今までの音楽の成績、スポーツへの関心、関心のあるスポーツ種目、スポーツ実践の好き嫌い、実践したいスポーツ種目、今までの体育の成績、性格特性（活動性、気分の安定性、協調性、ねばり強さ、温厚性、緻密さ、明朗さ）である。

分析は、調査対象全体の音楽志向、スポーツ志向、性格特性に関するすべての質問項目の回答結果の概要を明らかにするとともに、学生一人一人の音楽志向、スポーツ志向、性格特性に関する質問項目の回答結果をそれぞれスコアに置き換えて数字で表わし、質問項目相互のスコアに統計的に有意な相関がないかどうか、相関係数⁵⁾を算出して調べた。

尚、音楽志向ならびにスポーツ志向に関する7つの質問項目で基準としたスコアは表1に示すとおりである。また、性格特性に関する7つの質問項目で基準としたスコアは表2に示すとおりである。

表1 音楽志向ならびにスポーツ志向に関する各質問項目のスコア

区 分		スコア
音楽を聴くことの好き嫌い	音楽を聴くのが大変好きである	4
	どちらかというところ好きである	3
	どちらかというところ嫌いである	2
	嫌いである	1
歌を歌うことの好き嫌い	歌を歌うのが大変好きである	4
	どちらかというところ好きである	3
	どちらかというところ嫌いである	2
	嫌いである	1
楽器の演奏の好き嫌い	楽器の演奏が大変好きである	4
	どちらかというところ好きである	3
	どちらかというところ嫌いである	2
	嫌いである	1
今までの音楽の成績	音楽の成績がとても良かった	5
	どちらかというところ良かった	4
	ふつうだった	3
	どちらかというところ悪かった	2
	悪かった	1
スポーツへの関心	スポーツに大変関心がある	4
	どちらかというところ関心がある	3
	どちらかというところ関心がない	2
	関心がない	1
スポーツ実践の好き嫌い	スポーツをするのが大変好き	4
	どちらかというところ好きである	3
	どちらかというところ嫌いである	2
	嫌いである	1
今までの体育の成績	体育の成績がとても良かった	5
	どちらかというところ良かった	4
	ふつうだった	3
	どちらかというところ悪かった	2
	悪かった	1

表2 性格特性に関する項目のスコア

区	分	スコア
活動性	活発である	3
	おとなしい	2
	どちらとも言えない	1
気分の安定性	気分が安定している	3
	気分が変わり易い	2
	どちらとも言えない	1
協調性	協調的である	3
	マイペースである	2
	どちらとも言えない	1
ねばり強さ	ねばり強い	3
	あきらめが早い	2
	どちらとも言えない	1
温厚性	温和である	3
	気性が激しい	2
	どちらとも言えない	1
緻密性	緻密である	3
	大ざっぱである	2
	どちらとも言えない	1
明朗さ	明朗である	3
	明朗ではない	2
	どちらとも言えない	1

3. 結果と考察

(1) 調査対象全体の音楽志向に関する質問項目の回答結果の概要

調査対象全体の音楽志向に関する質問項目の回答結果は表3～7に示すとおりである。

音楽を聴くことの好き嫌いについての回答結果をみると、「大変好き」が80%、「どちらかという」と好き」が20%、「どちらかという」と嫌い」、「嫌い」という回答はみられなかった。このように、音楽を聴くことが嫌いな者は調査対象の中には一人もおらず、程度の差はあるが、音楽を聴くことが好きであることがわかった。

聴くことの好きな音楽のジャンル（複数回答）を多かった順に挙げると、「Jポップ」114人、「洋楽」40人、「ロック」20人、「Kポップ」17人、「アニメソング」12人、「吹奏楽」7人、「クラシック」6人、「バンド」5人、「邦楽」5人、「ボーカロイド」3人など23種類に及んだ。「特になし」という回答は5人であった。このように、調査対象の7割以上が「Jポップ」を、次いで4人に1人が「洋楽」を挙げていた。このほか「ロック」、「Kポップ」、「アニメソング」など学生の聴いている音楽のジャンルは多種類に及ぶことがわかった。

歌を歌うことの好き嫌いについての回答結果をみると、「大変好き」が30%、「どちらかという」と好き」が50%、「どちらかという」と嫌い」が18%、「嫌い」が2%であった。このように、程度の差はあるが、8割の学生は歌を歌うことが好きな傾向にあり、残りの2割が歌を歌うことをあまり好んでいないことがわかった。

歌うことの好きな音楽のジャンル（複数回答）を回答の多かった順に挙げると、「Jポップ」96人、「Kポップ」14人、「アニメソング」11人、「洋楽」10人、「ロック」8人、「バラード」6人、「合唱」4人、「ボーカロイド」4人、「邦楽」4人、など16種類に及んだ。「特になし」という回答は33人であった。このように、調査対象のおよそ6割が「Jポップ」を挙げておりきわめて多かったが、「Kポップ」、「アニメソング」、「洋楽」、「ロック」など学生が歌うことの好きな音楽のジャンルは多種類に及ぶことがわかった。

楽器を演奏することの好き嫌いについての回答結果をみると、「大変好き」が20%、「どちらかという」と好き」が46%、「どちらかという」と嫌い」が32%、「嫌い」が2%であった。このように、程度の差はあるが、7割近い学生は楽器を演奏することが好きな傾向にあり、残りの3割強が楽器の演奏をあまり好んでいないことがわかった。

演奏することの好きな楽器（複数回答）を多かった順に挙げると、「ピアノ」77人、「クラリネット」10人、「ギター」9人、「フルート」5人、「ホルン」4人、「打楽器全般」4人、「ドラム」4人など23種類に及んだ。「特になし」という回答は55人であった。このように、半数近い学生が「ピアノ」を挙げておりきわめて多かったが、「クラリネット」、「ギター」、「フルート」、「ホルン」、「打楽器全般」、「ドラム」など学生が演奏することの好きな楽器は多種類に及ぶことがわかった。

今までの音楽の成績についての回答結果をみると、「とても良かった」が12%、「どちらかという」と良かった」が45%、「ふつうだった」が40%、「どちらかという」と悪かった」が3%、「悪かった」はみられなかった。このように、程度の差はあるが、6割近い学生は子どもの頃の音楽の成績が良い傾向にあり、次いで「ふつう」が4割を占め、悪い傾向の学生はごくわずかであることがわかった。

表3 音楽志向に関する質問項目の回答結果

区 分		人	%
音楽を聴く ことの 好き嫌い	音楽を聴くのが大変好きである	127	79.9
	どちらかという好きである	32	20.1
	どちらかという嫌いである	0	0
	嫌いである	0	0
歌を歌う ことの 好き嫌い	歌を歌うのが大変好きである	48	30.2
	どちらかという好きである	80	50.3
	どちらかという嫌いである	28	17.6
	嫌いである	3	1.9
楽器の 演奏の 好き嫌い	楽器の演奏が大変好きである	32	20.1
	どちらかという好きである	73	45.9
	どちらかという嫌いである	51	32.1
	嫌いである	3	1.9
今までの 音楽の成績	音楽の成績がとても良かった	19	11.9
	どちらかという良かった	71	44.7
	ふつうだった	64	40.3
	どちらかという悪かった	5	3.1
	悪かった	0	0
全 体		159	100

表4 スポーツ志向に関する質問項目の回答結果

区 分		人	%
スポーツへ の関心	スポーツに大変関心がある	51	32.1
	どちらかという関心がある	76	47.8
	どちらかという関心がない	26	16.4
	関心がない	6	3.8
スポーツ 実践の 好き嫌い	スポーツをするのが大変好き	54	34
	どちらかという好きである	70	44
	どちらかという嫌いである	30	18.9
	嫌いである	5	3.1
今までの 体育の成績	体育の成績がとても良かった	24	15.1
	どちらかという良かった	61	38.4
	ふつうだった	50	31.4
	どちらかという悪かった	15	9.4
	悪かった	9	5.7
全 体		159	100

表5 性格特性に関する項目の回答結果

区 分		人	%
活動性	活発である	78	49.1
	おとなしい	39	24.5
	どちらとも言えない	42	26.4
気分の安定性	気分が安定している	68	42.8
	気分が変わり易い	60	37.7
	どちらとも言えない	31	19.5
協調性	協調的である	59	37.1
	マイペースである	68	42.8
	どちらとも言えない	32	20.1
ねばり強さ	ねばり強い	73	45.9
	あきらめが早い	39	24.5
	どちらとも言えない	47	29.6
温厚性	温和である	100	62.9
	気性が激しい	16	10.1
	どちらとも言えない	43	27

緻密性	緻密である	51	32.1
	大ざっぱである	67	42.1
	どちらとも言えない	41	25.8
明朗さ	明朗である	119	74.8
	明朗ではない	9	5.7
	どちらとも言えない	31	19.5
全 体		159	100

表6 聴くのが好きな音楽のジャンル（複数回答）

区 分	人	%
Jポップ	114	71.7
洋楽	40	25.2
ロック	20	12.6
Kポップ	17	10.7
アニメソング	12	7.5
吹奏楽	7	4.4
クラシック	6	3.8
バンド	5	3.1
邦楽	5	3.1
ボーカロイド	3	1.9
リズム&ブルース	2	1.3
バラード	2	1.3
ミュージカル	2	1.3
いろいろ	2	1.3
ラップ	1	0.6
洋楽以外	1	0.6
EDM	1	0.6
HIPHOP	1	0.6
演歌	1	0.6
歌謡曲	1	0.6
おだやかな曲	1	0.6
合唱	1	0.6
ポップス	1	0.6
特になし	5	3.1
全 体	159	100

表7 歌うのが好きな音楽のジャンル（複数回答）

区 分	人	%
Jポップ	96	60.4
Kポップ	14	8.8
アニメソング	11	6.9
洋楽	10	6.3
ロック	8	53.8
バラード	6	3.8
合唱	4	2.5
ボーカロイド	4	2.5
邦楽	4	2.5
いろいろ	4	2.5
バンド	2	1.3
ポップス	2	1.3
テレビ主題歌	1	0.6
テクノポップ	1	0.6
歌謡曲	1	0.6
昔の歌	1	0.6
特になし	33	20.8
全 体	159	100

(2) 調査対象全体のスポーツ志向に関する質問項目の回答結果の概要

調査対象全体のスポーツ志向に関する質問項目の回答結果は表8～10に示すとおりである。

スポーツへの関心についての回答結果をみると、「大変関心がある」が32%、「どちらかというに関心がある」が48%、「どちらかというに関心がない」が16%、「関心がない」が4%であった。このように、程度の差はあるが、調査対象の8割がスポーツへの関心が高い傾向にあり、関心が低い傾向にある学生は5分の1にとどまっていることがわかった。

関心のあるスポーツ種目（複数回答）を多かった順に挙げると、「サッカー」42人、「バレーボール」36人、「野球」33人、「バスケットボール」29人、「バトミントン」20人、「テニス」15人、「陸上競技」9人、「水泳」8人、「スケート」8人、「卓球」7人、「球技全般」7人、「ダンス」4人、「空手」3人、「剣道」3人など28種類に及んだ。「特になし」という回答は34人であった。このように、学生が関心をもっているスポーツ種目は「サッカー」、「バレーボール」、「野球」、「バスケットボール」、「バトミントン」、「テニス」など球技系の種目が上位を占めていることや、学生が関心をもっているスポーツ種目は多種類に及んでいることがわかった。

スポーツをすることの好き嫌いについての回答結果をみると、「大変好き」が34%、「どちらかというが好き」が44%、「どちらかという嫌い」が19%、「嫌い」が3%であった。このように、程度の差はあるが、8割近い学生がスポーツの実践を好む傾向にあり、スポーツの実践をあまり好まない学生は2割弱にとどまっていることがわかった。

実際に取り組みたいスポーツ種目（複数回答）を多かった順に挙げると、「バスケットボール」39人、「バトミントン」35人、「バレーボール」33人、「テニス」24人、「サッカー」16人、「水泳」9人、「卓球」9人、「陸上競技」7人、「野球」7人、「球技全般」7人、「ダンス」5人、「ソフトボール」4人、「ハンドボール」3人、「スポーツ全般」3人など29種類に及んだ。「特になし」という回答は36人であった。このように、学生が

取り組んでみたいと思うスポーツ種目の上位は「バスケットボール」、「バトミントン」、「バレーボール」、「テニス」、「サッカー」など球技種目が占めていることがわかったが、関心のある種目と取り組んでみたい種目の順位には違いがみられ、関心のある種目のトップの「サッカー」は取り組んでみたい種目の5位に、関心のある種目の3位の「野球」は取り組んでみたい種目の9位に順位が下がっていることがわかった。逆に、関心のある種目の4位の「バスケット」は取り組んでみたい種目のトップに、関心のある種目の5位の「バトミントン」は取り組んでみたい種目の2位に順位が上がっていることがわかった。

今までの体育の成績についての回答結果をみると、「とても良かった」が15%、「どちらかという良かった」が38%、「ふつうだった」が31%、「どちらかという悪かった」が9%、「悪かった」が6%であった。このように、程度の差はあるが、5割強の学生は子どもの頃の体育の成績が良い傾向にあり、次いで「ふつう」がおおよそ3割を占め、悪い傾向の学生が2割弱であることがわかった。

表8 演奏するのが好きな楽器（複数回答）

区 分	人	%
ピアノ	77	48.4
クラリネット	10	6.3
ギター	9	5.7
フルート	5	3.1
ホルン	4	2.5
打楽器全般	4	2.5
ドラム	4	2.5
サクソフォーン	3	1.9
タンバリン	3	1.9
ベース	3	1.9
トランペット	3	1.9
トロンボーン	2	1.3
ファゴット	2	1.3
リコーダー	2	1.3
いろいろ	2	1.3
オーボエ	1	0.6
ユーフォニウム	1	0.6
ハープ	1	0.6
バイオリン	1	0.6
シロフォン	1	0.6
木琴	1	0.6
鉄琴	1	0.6
ベル	1	0.6
和太鼓	1	0.6
特になし	55	34.6
全 体	159	100

表9 関心のあるスポーツの種類（複数回答）

区 分	人	%
サッカー	42	26.4
バレーボール	36	22.6
野球	33	20.8
バスケットボール	29	18.2
バトミントン	20	12.6
テニス	15	9.4
陸上競技	9	5.7
水泳	8	5
スケート	8	5
卓球	7	4.4
球技全般	7	4.4
ダンス	4	2.5
空手	3	1.9
剣道	3	1.9
バレエ	2	1.3
ハンドボール	2	1.3
新体操	2	1.3
弓道	1	0.6
筋トレ	1	0.6
自転車競技	1	0.6
スキー	1	0.6
ソフトボール	1	0.6
ドッジボール	1	0.6
ボクシング	1	0.6
ラグビー	1	0.6
ラケットスポーツ	1	0.6
ダーツ	1	0.6
ウィンタースポーツ	1	0.6
スポーツ全般	1	0.6
特になし	34	21.4
全 体	159	100

表10 実際に取り組んでみたいスポーツの種類（複数回答）

区 分	人	%
バスケットボール	39	24.5
バトミントン	35	22
バレーボール	33	20.8
テニス	24	15.1
サッカー	16	10.1
水泳	9	5.7
卓球	9	5.7
陸上競技	7	4.4
野球	7	4.4
球技全般	7	4.4
ダンス	5	3.1
ソフトボール	4	2.5
ハンドボール	3	1.9
スポーツ全般	3	1.9
剣道	2	1.3
新体操	2	1.3
ドッジボール	2	1.3
ラケットスポーツ	2	1.3
弓道	1	0.6
バレエ	1	0.6
ホッケー	1	0.6
自転車競技	1	0.6
スケート	1	0.6
なわとび	1	0.6
筋トレ	1	0.6
アスレチック	1	0.6
ジョギング	1	0.6
集団でやるスポーツ	1	0.6
身体活動	1	0.6
特になし	36	22.6
全 体	159	100

(3) 音楽志向ならびにスポーツ志向に関する質問項目相互の関連性の分析結果

学生一人一人の音楽志向ならびにスポーツ志向に関する7つの質問項目の回答結果をスコアに置き換え、質問項目相互の関連性の有無を相関係数を算出して調べた。質問項目相互の相関係数と相関の有無は表11に示すとおりである。

分析の結果、正の相関がみられたのは「音楽を聴くことの好き嫌い」－「歌を歌うことの好き嫌い」、「音楽を聴くことの好き嫌い」－「楽器を演奏することの好き嫌い」、「音楽を聴くことの好き嫌い」－「今までの音楽の成績」、「音楽を聴くことの好き嫌い」－「スポーツへの関心」、「音楽を聴くことの好き嫌い」－「スポーツをすることの好き嫌い」、「歌を歌うことの好き嫌い」－「今までの音楽の成績」、「歌を歌うことの好き嫌い」－「スポーツへの関心」、「歌を歌うことの好き嫌い」－「スポーツをすることの好き嫌い」、「楽器を演

奏することの好き嫌い」－「今までの音楽の成績」、「スポーツへの関心」－「スポーツをすることの好き嫌い」、「スポーツへの関心」－「今までの体育の成績」、「スポーツをすることの好き嫌い」－「今までの体育の成績」であった。この結果から、音楽を聴くことの好きな人ほど歌を歌ったり、楽器を演奏したりすることが好きで、今までの音楽の成績も良い傾向にあるのではないかということや、スポーツへの関心が高い者ほどスポーツの実践を好み、今までの体育の成績も良い傾向にあるのではないかということ、音楽を聴くことが好きな人ほど、また歌を歌うことの好きな人ほどスポーツへの関心が高く、スポーツを実践することを好む傾向にあるのではないかということが推察された。このように、音楽を聴いたり、歌を歌ったり、楽器を演奏することが好きな人は、音楽全般に対する関心が高く、それが音楽への積極的な取り組みにつながり、結果的に音楽に関する知識や技能

すなわち音楽的能力を高め、音楽の成績の好結果をもたらしていると考えられる。同様に、スポーツへの関心が高いことが、スポーツへの積極的な取り組みにつながり、結果的にスポーツに関する知識や技能、体力、運動能力を高め、体育の成績の好結果をもたらしていると考えられる。また、音楽を聴くこと―歌を歌うこと―スポーツへの関心―スポーツ実践の関連は、後に述べる活動性の高さと深く関わっているのではないかと考えられる。活動性の高さが物事への積極的な取り組みにつながり、音楽やスポーツへの積極的な関わりをもたらしているのではないと思われる。

一方、負の相関がみられたのは「楽器を演奏することの好き嫌い」―「スポーツへの関心」、「楽器を演奏することの好き嫌い」―「スポーツをすることの好き嫌い」、「楽器を演奏することの好き嫌い」―「今までの体育の成績」であった。この結果から、楽器の演奏を好む人ほど、スポーツへの関心は低く、スポーツの実践をあまり好まず、今までの体育の成績も良くない傾向にあるのでは

ないかということが推察された。このように、音楽聴取や歌唱の好き嫌いがスポーツとの関わりと正の相関があったのとは逆に、楽器演奏の好き嫌いだけがスポーツとの関わりと負の相関にあったが、これは楽器演奏の習得過程の特性と関連があるのではないかと思われた。音楽を聴いたり、歌を歌ったりとは異なり、楽器演奏技術を習得するには相当の時間と労力を必要とするため、特に音楽系の部活動や習い事に取り組んでいる者では、スポーツなど他の活動に費やす時間とエネルギーが相対的に減少した結果、スポーツへの興味や取り組みも消極的になり、それが体育の成績にも反映しているのではないかと思われた。同様に、スポーツ活動に相当の時間とエネルギーを費やす者、特に運動部に所属して活動している者などでは、楽器演奏のように習得に時間と労力を要する他の活動に取り組む時間が相対的に減少し、楽器演奏への興味や取り組みも消極的になっているのではないかと思われた。

表11 音楽志向ならびにスポーツ志向に関する項目相互の関連（数字は相関係数）

区分	今までの 体育の成績	スポーツ実践 の嗜好	スポーツへの 関心	今までの 音楽の成績	楽器演奏 の嗜好	歌唱の嗜好
音楽鑑賞の嗜好	0.155	0.250 ***	0.193 **	0.214 ***	0.227 ***	0.272 ***
歌唱の嗜好	0.069	0.252 ***	0.265 ***	0.256 ***	0.137	
楽器演奏の嗜好	-0.192 *	-0.184 *	-0.228 ***	0.507 ***		
今までの音楽の成績	0.011	0.041	0.064			
スポーツの関心	0.687 ***	0.823 ***				
スポーツ実践の嗜好	0.718 ***					

***P<0.01

** P<0.02

* P<0.05

(4) 調査対象全体の性格特性に関する質問項目の回答結果の概要

調査対象全体の性格特性に関する7つの質問項目の回答結果は表12に示すとおりである。

活動性についての回答結果をみると、「活発である」が49%、「おとなしい」が25%、「どちらとも言えない」が26%であった。このように、活発な傾向にある学生が約半数を占め、おとなしい傾向にある学生は4分の1にとどまっていることが

わかった。

気分の安定性についての回答結果をみると、「安定している」が43%、「気が変わり易い」が38%、「どちらとも言えない」が20%であった。このように、気分が安定傾向にある学生が4割強を占めたが、気分の変動が大きい傾向にある学生も4割近く存在することがわかった。

協調性についての回答結果をみると、「協調的である」が37%、「マイペースである」が43%、

「どちらとも言えない」が20%であった。このように、協調的な学生が4割近くを占める一方で、マイペースな傾向の学生が4割強存在することがわかった。

ねばり強さについての回答結果をみると、「ねばり強い」が46%、「あきらめが早い」が25%、「どちらとも言えない」が30%であった。このように、ねばり強い学生が半数近くと多かったが、あきらめが早い学生も4分の1を占めることがわかった。

温厚性についての回答結果をみると、「温和である」が63%、「気性が激しい」が10%、「どちらとも言えない」が27%であった。このように、温

和な傾向の学生が6割以上と多く、気性が激しい学生は1割にとどまった。

緻密性についての回答結果をみると、「緻密である」が32%、「大ざっぱである」が42%、「どちらとも言えない」が26%であった。このように、大ざっぱな傾向の学生が4割強を占め、緻密な傾向の学生は3割強であることがわかった。

明朗さについての回答結果をみると、「明朗である」が75%、「明朗ではない」が6%、「どちらとも言えない」が20%であった。このように、調査対象の4分の3は明朗な傾向にあり、明朗でない学生はごくわずかであることがわかった。

表12 音楽志向と性格特性、スポーツ志向と性格特性に関する項目相互の関連（数字は相関係数）

区分	音楽鑑賞の嗜好	歌唱の嗜好	楽器演奏の嗜好	今までの音楽の成績	スポーツへの関心	スポーツ実践の嗜好	今までの体育の成績
活動性	0.207 **	0.234 ***	-0.019	0.142	0.442 ***	0.481 ***	0.467 ***
気分の安定性	-0.042	-0.083	0.012	-0.089	-0.059	0.046	-0.046
協調性	0.074	0.084	-0.032	0.057	0.211 ***	0.217 ***	0.138
ねばり強さ	0.113	0.094	0.116	0.093	0.168 *	0.232 ***	0.125
温厚性	-0.069	-0.019	-0.096	-0.152	-0.095	-0.136	-0.180 *
緻密性	0.088	0.034	0.111	0.096	-0.044	0.049	-0.109
明朗さ	0.114	0.169 *	0.004	0.031	0.333 ***	0.374 ***	0.332 ***

*** $P < 0.01$

** $P < 0.02$

* $P < 0.05$

(5) 音楽志向と性格特性、スポーツ志向と性格特性の関連性の分析結果

学生一人一人の性格特性に関する7つの質問項目の回答結果をスコアに置き換え、音楽志向ならびにスポーツ志向に関する7つの項目のスコアとの関連性の有無を相関係数を算出して調べた。質問項目相互の相関係数と相関の有無は表12に示すとおりである。

分析の結果、正の相関がみられたのが「活動性」－「音楽を聴くことの好き嫌い」、「活動性」－「歌を歌うことの好き嫌い」、「活動性」－「スポーツへの関心」、「活動性」－「スポーツをすることの好き嫌い」、「活動性」－「今までの体育の成績」、「協調性」－「スポーツへの関心」、「協調性」－「スポーツをすることの好き嫌い」、「ねばり強さ」

－「スポーツへの関心」、「ねばり強さ」－「スポーツをすることの好き嫌い」、「明朗さ」－「スポーツへの関心」、「明朗さ」－「スポーツをすることの好き嫌い」、「明朗さ」－「子どもの頃の体育の成績」であった。一方、負の相関がみられたのが「温厚性」－「今までの体育の成績」であった。

このように、性格特性のうち、活動性、協調性、ねばり強さ、明朗さ、温厚さなどの特性が音楽志向やスポーツ志向と関連があるのではないかと考えられた。すなわち、活発な傾向にある者ほど、音楽やスポーツへの関わりもより積極であるため、音楽を聴くことや歌を歌うことを好む傾向にあり、スポーツへの関心も高く、スポーツをすることを好み、今までの体育の成績も良い傾向にあるのではないかと思われた。また、活発・協調的・ねば

り強い・明朗であることなどは、一般的にスポーツに向けた性格特性と考えられており、これらの特性をもつ者ほどスポーツへの関心も高く、スポーツをすることを好む傾向にあるのではないかと考えられた。さらに、温厚ではなく気性が激しい傾向にある者ではスポーツ活動の中で多くみられる「闘う」、「競う」といった場面で臆することなく力を発揮できることから、運動部活動などでも良い結果を残す者が多く、体育の成績も良い傾向にあるのではないかと推察された。

4. まとめ

学生の音楽志向、スポーツ志向、性格特性の関連性の分析を通して、(1)音楽を聴いたり、歌を歌ったり、楽器を演奏することが好きな人は、音楽全般に対する関心が高く、それが音楽への積極的な取り組みにつながり、結果的に音楽に関する知識や技能すなわち音楽的能力を高め、音楽の成績の好結果をもたらしているのではないかと推察された。(2)スポーツへの関心が高いことが、スポーツへの積極的な取り組みにつながり、結果的にスポーツに関する知識や技能、体力、運動能力を高め、体育の成績の好結果をもたらしているのではないかと推察された。(3)活動的な傾向にある者ほど音楽への取り組みも積極的で、音楽を聴くことや歌を歌うことを好む傾向にあるのではないかと推察された。(4)活発・協調的・ねばり強い・明朗であるなど、一般的にスポーツに向いていると言われる性格特性をもつ者ほどスポーツへの関心も高く、スポーツをすることを好む傾向にあるのではないかと推察された。

今回の分析を通して、学生の音楽志向、スポーツ志向、性格特性の間には様々な関連性があることが推察されたが、聴くことが好きな音楽のジャンル、歌うことの好きな歌のジャンル、演奏することの好きな楽器の種類、関心のあるスポーツの種類、実践してみたいスポーツの種類の間に関連性があるのかないのかの分析は今回実施していないので、今後これらの関連性についての分析をすすめていきたいと考えている。

<注>

- 1) 岡 朋子：音楽的能力と他の能力について－リズムに関する音楽的能力と運動能力との関係－，兵庫教育大学学校教育学部卒業論文，1－16. (1995)
- 2) 麻 書洋：音楽と身体能力との関連性について－好みの音楽聴取視点として－，人間発達学研究第6号，129－130. (2015)
- 3) 杵鞭宏美：スポーツ活動と音楽聴取に関する基本的考察－大学生と社会人によるアンケート調査から－，昭和音楽大学研究紀要第26号，48－60. (2006)
- 4) 広瀬優花、岩永 誠、安田晶子：大学生の音楽の好みと性格の関連－性格特性がジャンルの一般的な好みに与える影響－，日本心理学会第76回大会発表論文集，678. (2012)
- 5) 福富和夫、永井正規、中村好一、柳川 洋：ヘルスサイエンスのための基本統計学，南山堂，101－113. (1989)

<参考文献>

- ・澤田優子、澤田孝二：音楽鑑賞のリラクセーション効果についての一考察，山梨学院短期大学研究紀要第36巻，115－120. (2016)
- ・古佐小基史：トータルヘルスと音楽，保健の科学第54巻，703－707. (2012)
- ・小島正憲：音楽がスポーツパフォーマンスに与える影響，東海学院大学研究紀要第8号，217－224. (2014)
- ・大森美美：運動中の身体に及ぼす音楽の影響，東京女子体育大学研究紀要第20号，62－78. (1985)
- ・貫 行子、長田 乾、川上 央：音楽聴取による脳波変動と気分変化、音楽選好と性格特性の関連性，情報処理学会研究報告音楽情報科学，35－40. (2004)
- ・小竹訓子、中村恵子、高橋由紀：音楽療法のリラクセーション効果に関する研究，県立長崎シーボルト大学研究紀要第5号，1－10. (2005)
- ・松本じゅん子：音楽の気分誘導効果に関する実証的研究，教育心理学研究第50巻，23－32. (2002)
- ・荒金英理子、川出富貴子：音を聴くこと、歌を歌うことによるリラクセーション作用－身体的および心理的变化－，川崎医療福祉学会誌第19巻，105－111. (2009)
- ・澤田孝二、澤田由美：短期大学学生の性格特性がスポーツ行動および心身の健康に及ぼす影響，山梨学院短期大学研究紀要第34巻，63－73. (2014)

